一番明るいα星は４．１等星で呼び名は“アルフェッカ・メリディアナ”（南の欠け皿）で、かんむり座のα星アルフェッカ（欠け皿）と同じ名前が付いています。古代のアラビアでは、かんむり座を「欠けた皿」と見ていましたが、みなみのかんむり座も「貧乏人の皿」とよんでおり、現代の私たちが思い描く“かんむり”のイメージとは縁遠い名前でおもしろいですね。

★今月のテーマ 星まつり七夕の星と木星・土星を観る会

「七夕？もう終わったんじゃないの」と思われるでしょうが、今年の旧暦の七夕は８月２５日なんですよ、姫治天文クラブでは情緒性や風情を感じてもらいたいので毎年旧暦の七夕前の土曜日に七夕の星を観る会を行っています。

物語の作られた時代に双眼鏡や望遠鏡があったら、私はきっと二人と言われている子供の人数はもっと増えていたと思うのですが、織姫さんが連れている子供の星、あなたは何人に見えますか？そんなふうに言われると、あなたも望遠鏡で見たくなってきたんじゃありませんか？ぜひ私たちと一緒に、姫路公民館屋上の望遠鏡で観察してみましょう。

-次回の天文クラブ-

●８月の星を見る会

８月 22 日 (土) 午後 7 時 30 分より

伝統的七夕

夏の星座観察

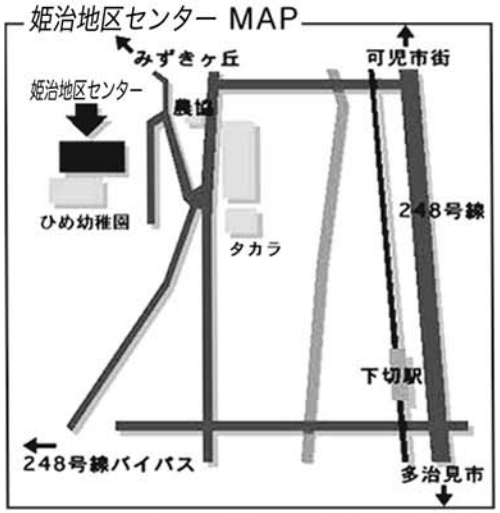
●仲秋の名月を見る会

９月 26 日 (土) 午後 7 時 30 分より

月の観察

夏の星座観察

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104
姫治天文台
http://himeziten.yu-yake.com/

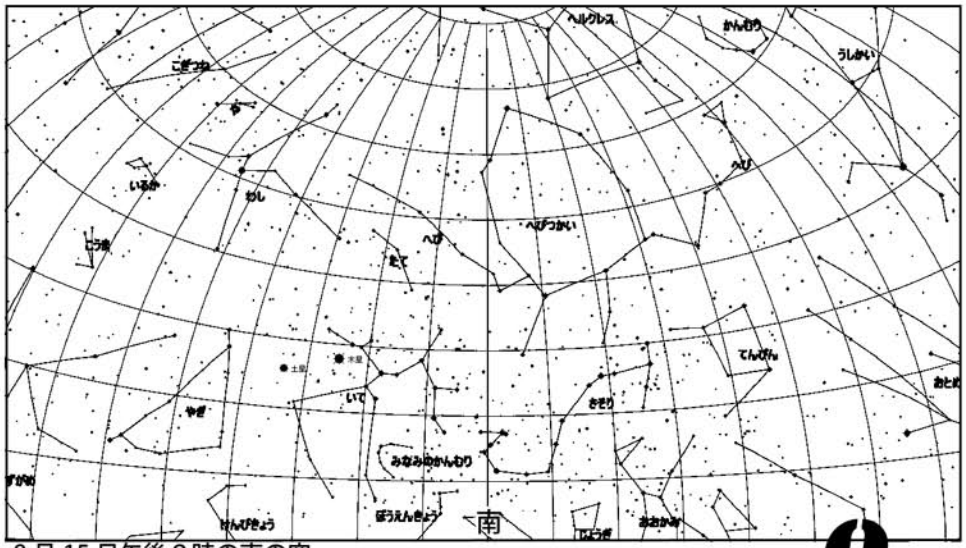


JR太多線下切駅より徒歩13分

2020 年８月１日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター（62-0104）まで

姫天だより



８月 15 日午後８時の南の空

8月号 2020

★今月の星座 みなみのかんむり座

８月下旬の午後８時ごろ真南の空に見られる“いて座”の南斗六星の南で、４等星以下の星ぼしがかわいらしい半円形を形作っています。地平線からの高さは可児市ではおよそ１５度ほどのあたり、意外と高く感じられますが、木立や建物があればかんたんに隠れてしまう高さで、仮に視界が開けていても４等星以下の暗い星ぼしでは大気の減光も大きく、春日井や名古屋の光害の影響もあり、可児市では見つけにくい星座になります。“みなみのかんむり座”を見つけるには、南の開けた夜空の暗いところを知っている必要があるかもしれません。

姫天だよりを読んでいる方の中には、以前に“かんむり座”（２０１８年７月号）を紹介しているので不思議に思われるかもしれませんが、北半球に見られるかんむり座と区別する為“みなみのかんむり座”とわざわざ呼んでいるのです。これは学名にも標記されていて“Ｃｏｒｏｎａ Ａｕｓｔｒｉｎａ”Ｃｏｒｏｎａが冠、Ａｕｓｔｒｉｎａが南の、という意味になります。

みなみのかんむり座はかなり古くから知られていた星座で、プトレマイオスの４８星座にも含まれています。プトレマイオスはこの星座を草花を束ねて作った輪に見たてて「南のリース」と言っています。古い星図には月桂樹を束ねてつくったかんむりが描かれているものがあります。

また、この星座には「射手のかんむり」とか「ケンタウルスの冠」という呼び名が残っています。いて座のみなみにあり、射手もケンタウルスも半人半馬のケンタウルス族であることからきています。

裏面に続く